

日 時：令和 2 年 7 月 25 日（土）13:00～15:00

会 場：国際文献社パブリッシングセンター会議室および WEB 会議室

出席者：常務委員(14 名)：山崎淳司 (WEB)、河野元治 (WEB)、中川昌治 (WEB)、佐藤 努 (WEB)、
蛭名武雄 (WEB)、日比野俊行 (WEB)、伊藤健一 (WEB)、小口千明 (WEB)、川俣
純 (WEB)、鈴木正哉 (WEB)、田村堅志 (WEB)、樽田誠一 (WEB 代理：岡田友彦)、
手束聡子 (WEB)、横山信吾 (WEB)、鈴木憲子 (WEB)

監事(2 名)：月村勝宏 (WEB)、志々目正高 (WEB)

事務局：川島朝子

成立確認：常務委員総数 15 名の過半数 8 名

出席常務委員 14 名で常務委員会の開催は成立

審議事項

1. 2020 年度事業中間報告 (資料 1)

(1) 学術雑誌の編集と発行

日比野編集委員長 (粘土科学)、蛭名編集委員長 (Clay Science) からそれぞれ資料をもとに報告があった。

(2) 研究発表会・見学会等の開催

第 63 回粘土科学討論会 (埼玉大学) の開催について、小口実行委員長より資料をもとに開催報告があった。盛会であった旨と常務委員の方々の協力に対してのお礼があった。

第 64 回粘土科学討論会 (信州大学) の準備状況について、樽田実行委員長の代理として岡田友彦先生より報告があった。今年度の開催はコロナ禍の影響で 1 年延期が決まったので 2021 年 9 月 13～17 日の間の 2 日間で開催できるように会場を確保したとの報告があった。

(3) シンポジウム・セミナーの開催

資料をもとに、田村企画委員長より第 63 回粘土科学討論会でのシンポジウムの報告と第 64 回粘土科学討論会でのシンポジウム準備状況が報告された。また、セミナーについては委員会内で議論が進められたが、一般の事情で現在は開催の見込みがたないとの報告があった。

(4) 参考粘土資料

鈴木正哉参考粘土委員長より、資料をもとに報告があった。

(5) 広報

横山広報委員長より、資料をもとに報告があった。

(6) 渉外

川俣渉外委員より、資料をもとに報告があった。第 4 回 Asian Clay Conference はオンライン開催となったが盛会であった旨が報告された。また、次回は米国粘土学会と共同開催が予定されており、日本の窓口には佐藤常務委員長が就任することとなった。

(7) 表彰

佐藤常務委員長より、資料をもとに報告があった。

(8) 研究促進

佐藤常務委員長より、資料をもとに報告があった。現在活動している研究グループは1件であり、活発な研究活動のために新しいグループを歓迎するとのコメントがあった。

(9) 庶務

小口庶務委員より、資料をもとに他学会等との連絡・協力について報告があった。また手束庶務委員より、関連学協会との共催・協賛、および会員動向についての報告があった。

(10) 常務委員会及び理事会

佐藤常務委員長より、資料をもとに報告があった。

2. 2020 年度会計中間報告 (資料 2)

伊藤会計委員から、資料をもとに報告があった。6月30日までの決算であるため、今後支払いが生じるものもあるが、単年度では90万円程度の黒字となり、これは討論会での収益が大きく寄与していることが報告され、小口実行委員長に対し謝意が述べられた。16名(正会員12名、シニア会員2名、学生会員2名)の会費未納者について、事務局川島さんから説明があり、引き続き支払いのお願いをするとのことであった。2年以上の未納者が退会を希望しているが、会費未納のままでは退会ができないので扱いについて議論があった。伊藤会計委員より、会員資格停止者を会員数に入れると予算が立てにくいので、「有資格会員数」という表現が提案された。

3. 2021 年度業務委託契約 (資料 3)

佐藤常務委員長の指名で、事務局川島さんから来年度の業務委託契約の変更点の説明があった。契約書および覚書に変更は無く、算定基準書を改定した。改定は下記3点である。

- (1) クレジット引落代行手数料
- (2) 登記用住所提供
- (3) Zoom 利用料 (会議設定費用)

4. 2021 年度事業計画 (資料 4)

各担当委員より 2021 年度の事業計画が資料に基づき説明された。常務委員会・理事会の開催について、1月22日(土)について日にちの間違いが指摘され、1月23日(土)に変更した。

5. 2021 年度予算 (資料 5)

伊藤会計委員より、資料を基に説明があった。収入、支出ともに今年度の決算を踏まえて予算編成をしているが、今年度は討論会が開催できなかったので収入の大幅減が見込まれるとの見解が示された。

6. 2020 年度日本粘土学会学会賞等選考結果 (資料 6)

佐藤常務委員長より、資料に基づき 2020 年度日本粘土学会学会賞等選考結果が報告された。

7. 2020 年度日本粘土学会学術振興賞選考結果 (資料 7)

佐藤常務委員長より、資料に基づき 2020 年度日本粘土学会学術振興賞選考結果が報告された。

8. 2021・2020 年度日本粘土学会役員選挙結果 (資料 8)

佐藤常務委員長より資料を基に選挙結果が報告された。

9. 2020年度総会の開催日時と形式について（資料9）

佐藤常務委員長より資料に基づき説明があった。本年度は9月15日（火）に開催し、会長と川島さんが国際文献社会議室、その他は Zoom Meeting を利用したオンライン参加でのお知らせをすることが報告された。Zoom による参加可能人数の質問があり、川島さんから100人との回答があった。参加予定人数を鑑みると足りなくなる可能性があり、この件については精査・再考することとした。また案内の文面の一部に意見があり、書面による決議権の行使は約款にないので、「委任状を提出することができる」に変更することとした。

10. 投稿論文における不正行為防止について（資料10、11）

日比野粘土科学編集委員長より、資料10を基に説明があった。2020年3月に二重投稿とみられる投稿があったことから、再発防止策として4案が示された。議論の結果「論文投稿における不正行為の禁止」を執筆要項に加えることとなった。

11. WEB 役員選挙の導入について

佐藤常務委員長より、経費節約および作業効率向上のためにWEB役員選挙を導入したいとの提案があった。手束庶務委員より、本会のwebのMy Pageから可能であることが説明された。初期費用を精査して、次回の選挙からの導入を目指すことになった。

12. AIPEA の web ページ内への各国学協会紹介ページの開設について

川俣渉外委員より説明があり、本会webの英語ページをリンクすることから始めることが提案された。

13. 第64回粘土科学討論会とシンポジウムに関しては理事会で審議をすることとした。

14. その他

川俣渉外委員より、AIPEAが法人化を進めており、加盟団体の代表者を推薦して欲しいとのリクエストがあったことが報告された。小暮新会長を推薦したいとの提案があり、反対意見は無かった。

以上、審議の上承認された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

令和2年7月25日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

常務委員長 佐藤 努 ⑩

監 事 月村勝宏 ⑩

監 事 志々目 正高 ⑩